

論文式試験問題集
〔刑事訴訟法〕

【刑事訴訟法】

次の【事例】を読んで、後記【設問1】及び【設問2】に答えなさい。

【事例】

平成30年2月14日午後5時、B市内の宝飾店において、上下とも黒色の服を着用した男が、同店の店員に果物ナイフを突きつけて脅し、高級時計を奪い、同店前に止めてあった自動車の助手席に乗り込んで逃走した。同店員は、上記自動車を目撃し、110番通報を行うとともに、確認した同車の車種・色、男の服装・体格等の特徴を伝えた。

司法警察員K及びLは、午後5時20分ころ、上記通報内容と合致する自動車（以下「本件車両」という。）が、上記宝飾店から約15キロメートルの路上を走行しているのを発見し、同車が信号待ちのために停車した際、本件車両の運転席にいた男（甲）に「ご協力をおねがひしたいことがあるので、車を左に寄せてもらえますか。」と声をかけた。すると、甲は、本件車両を道路左脇に寄せて停めた。

そこで、Kは、甲に対し、どこから運転してきたのかと質問したが、甲は、無言で、運転免許証の提示要求にも応じなかった。甲の服装は、犯人の服装体格と符合していた上、Kと目を合わせようとせず落ち着かなかった。Kは、甲が、上記事件の犯人ではないかとの疑いを持ち、甲に対し、本件車両助手席の上に置かれていたトートバッグの中を見せてもらうよう求めたが、甲は、「見せる必要はない。」と返答した。

そこで、Kは、①本件車両の開いていた助手席の窓から手を入れ、上記バッグの口をつまんで、中身を一瞥したところ、果物ナイフが入っているのを発見した。Kが、果物ナイフを持っている理由を尋ねると、甲は、犯行を自白した（後に、本件強盗容疑で逮捕された。）。

逮捕後、甲の自宅の搜索差押許可状の発付を得て、甲方を搜索したところ、②被害があった宝飾店のショーケース等の配置、高級腕時計が入ったショーケースの位置などを示した手書きの店内見取図及び宝飾店から自宅までの運転で通るべき交差点や経路の目印などの道順、役割分担を記載したメモ1枚が発見され、差し押さえられた。

甲は、逮捕後の取調べで、宝飾店強盗は、乙と一緒に計画して実行に移した、乙と本件車両で宝飾店まで行き、甲が宝飾店内に押し入り、乙は同車内で逃走に備えて待機し、犯行後、乙の運転で乙方まで行き、乙が腕時計を持って降りた後、本件車両を運転して家に帰ろうとしていたところ職務質問を受けたと供述した（その後、乙も共犯者として逮捕された。）。また、差し押さえられたメモは、「乙と一緒に強盗の相談をしながらメモしたものである。」旨供述した。鑑定の結果、このメモには、甲及び乙の指紋がそれぞれ複数付着していることが判明した。なお、公判において、甲乙ともに、犯行への関与を一切否認している。

【設問1】

①の所持品検査の適法性について、論じなさい（職務質問は適法であることが前提）。

【設問2】

検察官Pは、②のメモを「本件メモの存在及びその記載内容」を立証趣旨として証拠調べを請求した。本件メモの証拠能力について論じなさい。

以 上